

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果についてお知らせします

(令和7年 10 月 1 日 西原村教育委員会)

調査目的：義務教育の機会均等や一定以上の教育水準が確保されているかを把握し、教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ※調査実施日(令和7年4月17日)
対象学年：小学6年生(国語・算数・理科)、 中学3年生(国語、数学、理科)
調査項目：教科に関する調査(小学校5年生までの内容、中学校2年生までの内容)、質問紙調査
表示内容：各教科の平均正答率等を示す表及びグラフと本村の児童生徒の成果と課題

【今回の調査結果から】

西原村の小学校2校(山西小学校、河原小学校) 及び 中学校1校(西原中学校) における検査結果

校 種 教 科 等	平均正答率 (中学校理科は IRT スコア)					
	小 学 校			中 学 校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
西原村(公立)	68	62	62	55	47	47.5
全国比(※1)	101.8	106.9	108.6	101.3	97.3	94.4
熊本県(公立)	66	55	57	53	44	49.7
全 国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	50.3

※1 全国比：各校種・教科において全国を100とした場合における西原村の数値

小学校国語

◎成果：学習指導要領で示された内容を理解している児童が比較的多く、良好な結果を示している。特に、思考力・判断力・表現力等では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域について、高い回答率を示した。

△課題：特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」において、課題がみられた。特に、漢字を文章の中で正しく使うことや、言葉の特徴や使い方に注意して登場人物の心情の変化を読み取るなどの基礎的・基本的な指導が必要である。

【正答率の低かった問題例】

- ※ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題(「あつい日」、解答「暑い日」)
- ※ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、適切なものを選択する問題

小学校算数

◎成果：学習指導要領で示された内容を理解している児童が比較的多く、良好な結果を示している。全ての領域において全国平均を上回っているが、特に、「数と計算」の領域については高い回答率を示し、本村児童の正答率は全国と比較すると5ポイント以上高い数値を示している。これは、日々の授業における基礎的・基本的事項の定着が図られていることによるものと捉えている。

△課題：問題形式としての「記述式」にやや課題がみられる。特に、「データの活用」に関する問題の意味理解及びデータから予測される数値の算出等において正答率が低位にあるので、身近な数値を活用した問題づくり等を通して理解を深めさせていく必要がある。

【正答率の低かった問題例】

- ※ 目的に応じて適切なグラフを選択し、そこから読み取ることができる内容や理由を言葉や数を用いて記述する問題
- ※ 図形の面積の求め方を式や言葉を記述する問題

小学校理科

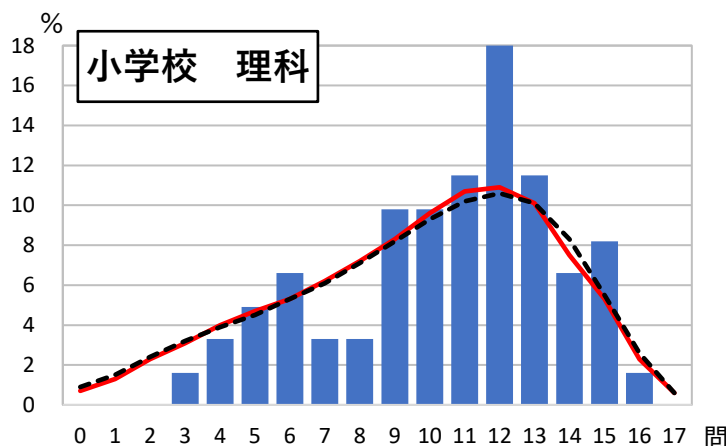
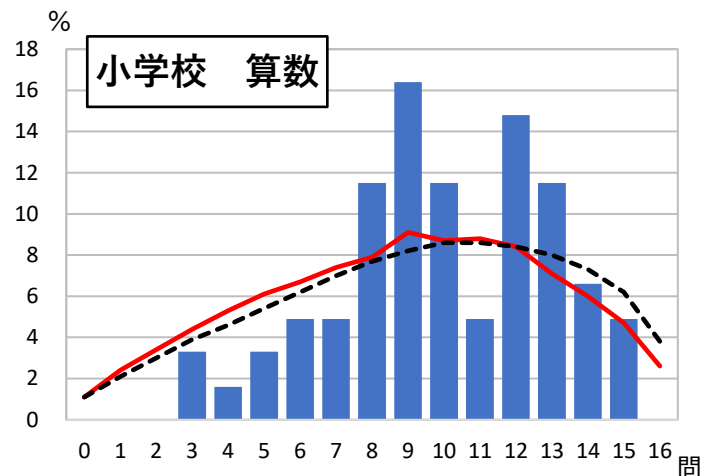
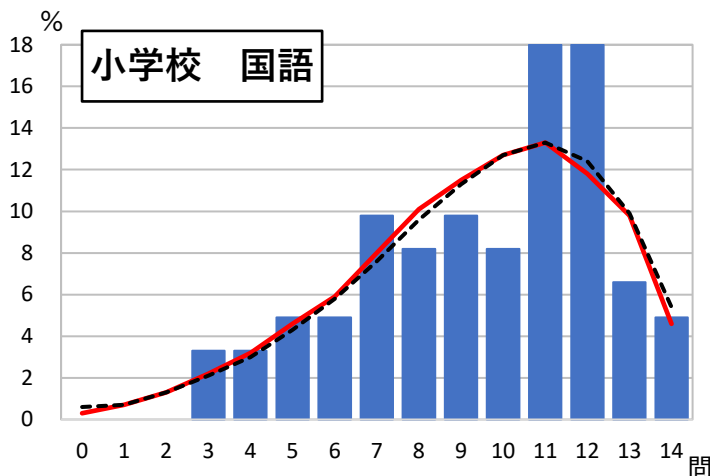
◎成果：学習指導要領で示された内容を理解している児童が比較的多く、良好な結果を示している。特に、「エネルギー」を柱とする領域、「生命」を柱とする領域については、高い回答率を示した。

△課題：「粒子」を柱とする領域において、まとめを導きだす際の観察や実験の方法を検討したり、状態変化に関する事象の理由を予想し、表現する問題に課題が見られた。

【正答率の低かった問題例】

※ 水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する問題

※ 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現する問題



■各教科における西原村の小学校と熊本県及び全国との正答数別人数分布の比較
・国語（問題数14問）
・算数（問題数16問）
・理科（問題数16問）

■ 西原村
■ 熊本県（公立）
■ 全国（公立）

中学校国語

◎成果：学習指導要領で示された内容を理解している生徒が比較的多く、良好な結果を示している。特に、思考力・判断力・表現力等では「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については、高い回答率を示した。

△課題：知識・理解について、特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、課題がみられた。今後、漢字（熟語）の意味や用法の理解、表現の効果と用法等の理解・定着について力を付けていく必要がある。

【正答率の低かった問題例】

※ 文脈に即して漢字を正しく使う問題（変換した漢字として適切なものを選択する「かいしん」）

※ 表現の効果について、根拠を明確にして考える問題

（物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものを選択する）

中学校数学

◎成果：不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題、事象が常に成り立つとは限らないことを反例をあげて説明する問題の正答率が全国平均に比べて高くなっているものの、全ての問題で全国的な正答率の傾向と重なり、多くの問題で全国平均を下回った。

△課題：「思考・判断・表現」の観点、「図形」「関数」の領域において課題が見られるとともに、二極化から、さらに正答率 3 割未満の生徒の割合の増加傾向が見られるので、この傾向を克服するために、理解したことを定着させるために学び合い(アウトプット型)を重視し、解消するための学びが必要である。

【正答率の低かった問題例】

- ※ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題
- ※ 証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだす問題

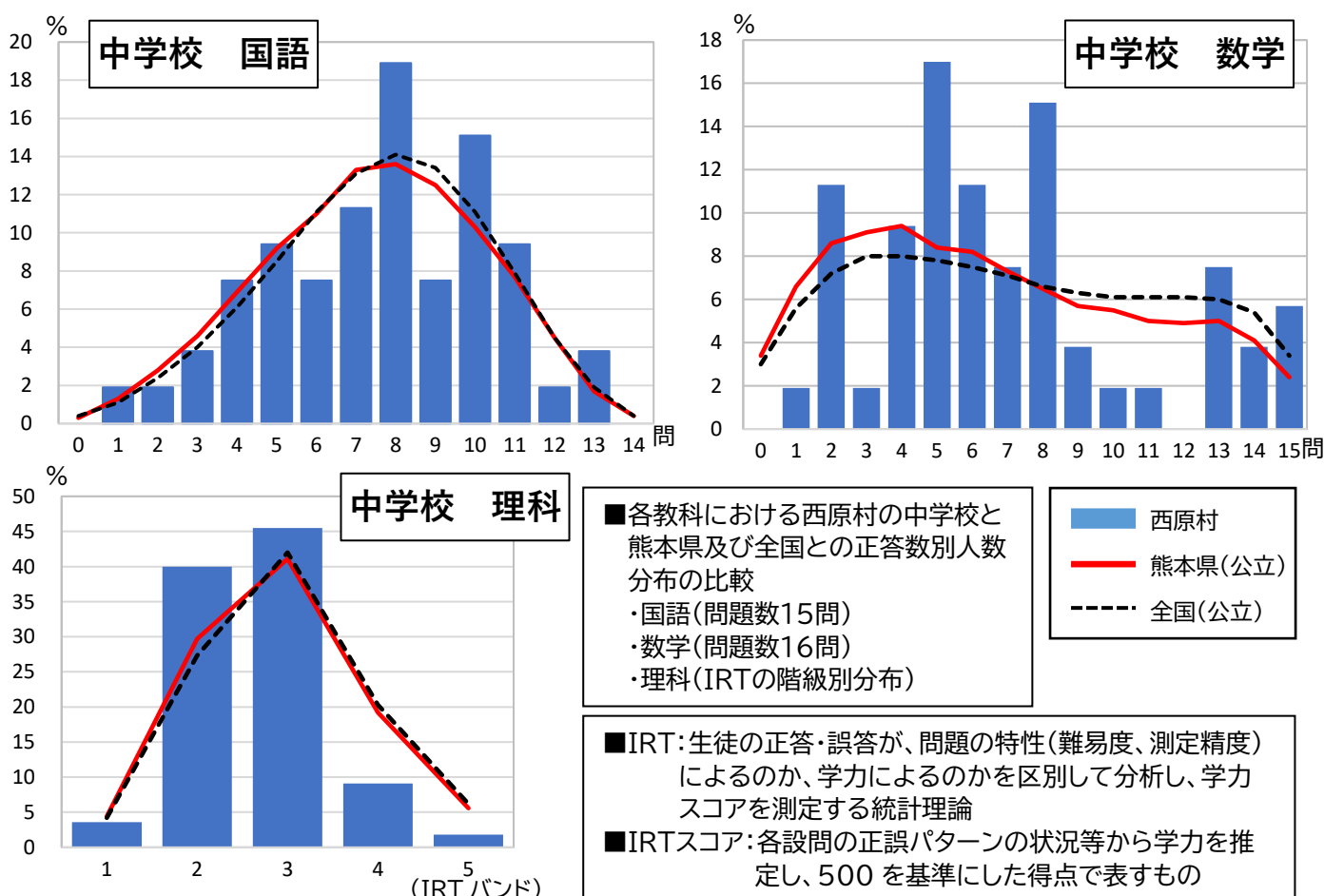
中学校理科

◎成果：身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を上回ったものの、全ての問題で全国的な正答率の傾向と重なり、ほぼすべての問題で全国平均を下回った。

△課題：特に、「粒子」を柱とする領域での正答率が全国平均を下回った問題が多く、目に見えない物質の概念が習得できていないと考えられるため、粒子モデルを使い、微視的なものの見方ができるよう指導していく必要がある。

【正答率の低かった問題例】

- ※ 元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題
- ※ 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験結果の化学変化を原子や分子のモデルで表す問題



■ 西原村としての課題(今後の取組の方向性)

各校における基礎的・基本的な事項及び応用的な問題に対応できる力を育む取組みを通して、一部課題が確認されたものの、以前と比較すれば向上傾向にあり、一定の成果を得ることができたと捉えている。

また、正答率が3割未満の児童生徒数を見た場合、小学校では国語(西原村 6.6%、全国7.7%)、算数(西原村 4.9%、全国14.7%)、理科(西原村 9.8%、全国 16.4%)と、全国比との関係からみるとやや少ない傾向にはあるものの、中学校では国語(西原村 15.1%、全国14.0%)、数学(西原村 24.5%、全国 31.8%)、理科(西原村

43.6%、全国 31.5%)となっており、その比率は年々高くなっている。西原村では、正答率3割未満の児童生徒を限りなく少なくすることが教育の充実に係る重要な課題だと捉えており、今後、この部分の解消に向けて取り組んでいきたい。

■ 質問紙調査の結果から(一部抜粋)

<全国平均より高かった事項>

※黄色のセル:全国値より10%以上高い項目

	質 問 事 項	校 種	西原村	全 国
①	朝食を毎日食べていますか。	中学校	98.2 %	91.2 %
		小学校	96.7 %	93.7 %
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	中学校	94.6 %	92.2 %
		小学校	95.0 %	92.2 %
③	人が困っているときは、進んで助けていますか。	中学校	94.6 %	90.9 %
		小学校	96.7 %	93.7 %
④	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	中学校	98.2 %	95.9 %
		小学校	98.3 %	97.2 %
⑤	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	中学校	100.0 %	96.6 %
		小学校	100.0 %	96.4 %
⑥	学校に行くのは楽しいと思いますか。	中学校	89.2 %	86.1 %
		小学校	96.7 %	86.5 %
⑦	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	中学校	82.1 %	79.2 %
		小学校	78.3 %	78.1 %
⑧	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	中学校	92.8 %	91.6 %
		小学校	100.0 %	93.0 %
⑨	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。	中学校	84.0 %	75.7 %
		小学校	90.0 %	80.6 %
⑩	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	中学校	89.3 %	84.7 %
		小学校	88.3 %	84.9 %
⑪	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	中学校	91.1 %	83.8 %
		小学校	98.4 %	87.4 %
⑫	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	中学校	96.5 %	91.9 %
		小学校	93.4 %	91.9 %
⑬	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	中学校	96.4 %	91.5 %
		小学校	91.6 %	88.0 %

<全国平均より低かった事項>

※赤色のセル:全国値より10%以上低い項目

	質 問 事 項	校 種	西原村	全 国
①	友達関係に満足していますか。	中学校	91.1 %	91.4 %
		小学校	90.0 %	91.7 %
②	新聞を読んでいますか。	中学校	1.8 %	5.7 %
		小学校	6.6 %	10.5 %
③	読書は好きですか。	中学校	51.8 %	61.6 %
		小学校	66.7 %	69.7 %
④	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	中学校	73.2 %	75.3 %
		小学校	75.0 %	81.3 %
⑤	国語の勉強は好きですか。	中学校	44.6 %	57.9 %
		小学校	48.3 %	58.3 %
⑥	理科の勉強は好きですか。	中学校	50.0 %	63.8 %
		小学校	78.3 %	80.1 %

【終わりに】

本調査は、児童・生徒の教育水準の維持向上を図るために、児童生徒の学力及び学習習慣の長所や課題等を明らかにしながら、教育環境及び指導方法の工夫改善を図るためのものである。今回、本調査結果の整理・分析を通して、教育環境及び指導方法等を再検討し、自ら学ぶ子どもの育成に向けた具体的方策を講じていきたい。